

自主研究グループへ インタビュー

平成 28 年度に自主研究グループを発足させた 3 グループ。3 グループとも、自由な発想で活発に取り組んでいました。

——それぞれの取り組み内容について、簡単に教えてくださいませんか？

La・sol 私たちは、「地域コミュニティの課題」について取り組みました。地域コミュニティには若者が少ない。若者は SNS を通して、趣味によるコミュニティを形成しており、地域コミュニティの必要性を感じていないと分析しました。それを調査するため、市内の地域づくり協議会に協力を求め、2 地区のイベントでアンケートを実施。そして、若者に、地域に目を向けてもらうべく、『小野市でおもしろいことをしよう！』と考え、イベントを企画しました。第 1 回は雨で中止となってしまいましたが、たくさんの人に興味を持っていただき、現在、第 2 回のイベントを企画中です。



ONO-zine 私たちは、「小野市の観光資源の再発見」をテーマに、市や観光協会とは異なる視点から、観光資源の発信と発掘に取り組みました。発信は Facebook や Instagram を使用し、平成 28 年 11 月には Facebook で「市民による小野市の魅力発見」を趣旨とし、「小野市の秋」をテーマにしたフォトコンテストを開催しました。



マル防 私たちは、防災対策や災害時等に女性の視点が十分に反映されていないと考え、「女性活躍の場と推進」について研究しました。まず、子どもを対象に、防災を楽しく学んでもらうためのゲーム（すごろく・かるた）を取り入れました。また、身近なもので防災グッズを作り、専用台紙に防災グッズカードを貼り付けて、自分だけの防災ブックを完成させるといった実践型の研究をしています。他のグループとのコラボを求め市外に進出し、情報を得たりもしています。第 2 弾としては、女性の視点を反映させた「災害時のトイレ」をテーマとし、研究を深めています。



——行政課題を研究してみてどうでしたか？

ONO-zine 行政では取り組んでいない SNS を活用したフォトコンテストの開催など、若手職員らしい柔軟な発想を生かし、積極的にチャレンジできるよい機会となりました。



La・sol 難しかったです。難しい中でもやりがいがあり、非常に濃いものになっています。例えば、地元の方との交流。職員という立場であれば、堅苦しくなりがちですが、仕事ではないこと、若さなどの要素から、快く受け入れて下さり、とても良くしていただきました。そのような経験、人間関係の構築は、今後の職場において必ず活かせると思います。



マル防 研究してみて、チームの重要性を実感しました。



また、活動を点（個・団体）で終わらせるのではなく拡散や巻き込みをするには、いかに多くの職員や市民へ情報発信し、共感を得られるかが必要になります。小野市だけの内向き思考でなく、外部に目を向け関心を持ち、広い視野で物事をとらえ、様々な活動からヒントを得る必要があると感じました。世代間や外国とのジェンダー意識の違い、先進自治体の防災への取り組みなどまだまだ学ぶことは多くあります。



——各グループにはそれぞれアドバイザーがついていますよね。

La・sol 私たちのグループは、部長級の方がアドバイザーであり、会議のたびに緊張していましたが、普段話をする機会が少ない上司と意見を交えることができ、とてもよかったです。また、経験豊富な大先輩ですので、自分たちでは考え付かない視点でアドバイスをいただいたことは、とても勉強になりました。



マル防 今回のテーマにふさわしいアドバイザーで非常に心強く、的確なアドバイスをして頂いています。



ONO-zine 話し合いが行き詰ったときなどの的確なアドバイスをいただき、非常に心強かったです。常に“楽しむ”姿勢のアドバイザーのおかげで、とても楽しく有意義な自主研究になりました。



——市長の前でのプレゼンはどうでしたか？

La・sol 非常に緊張しました。本当に自分たちがこの自主研究で学んだこと、感じたことを全て出し切れたかということではなく、悔いの残る発表になったと思います。しかし、市長の前で発表する場を経験できたことは自分たちの糧になると思いますし、市長の辛口コメントを真摯に受け止め、もっと若者らしさを出していきたいと前向きに考えています。



ONO-zine 私たちもとても緊張しましたが、楽しくプレゼンできたと感じております。もっとプレゼン能力を磨き、リベンジしたいと思います。(笑)



マル防 マル防はチームワークが非常によく、取り組んできた内容が市長に褒められ、報告会として完成度は高かったと感じています。しかし、業務時間外での研究は期間も短く、紆余曲折しながらになるため、深い掘り下げまではできなかったのが残念です。



——今後、小野市をどのようにしていきたいですか？

La・sol 若者の力で活気あふれる市にしたいです！単に若者の人数を増やすのではなく、若者が自らの手で、発想で、小野市をおもしろく、楽しくできる。そのような場を持つ。若者が自由な発想で事を起こせる市にしたいです。



ONO-zine 市の情報発信において、行政から市民へ、一方向の情報発信に留まっていると研究を通じ感じました。双方向による発信を行い、市民と行政が共に、魅力を発信・発掘できる小野市になればと思います。



マル防 背伸びをしないありのままの小野市と、地震大国であり災害が多い日本において、安心して来日でき小野市を訪問してもらえる環境づくりを行い、外国人向けの案内看板や災害マップ、アドバイザーなど、いつ発生するかわからない災害にとことんこだわり、防災の最先端を行き、他の自治体と違ったシティブランドを創設したいです。また、『女性の能力や女性の活躍の場が当たり前の小野市』、『地域住民に愛着をもってもらえる小野市』、『誰もが地域づくり、まちづくりに参加したくなる小野市』、『ダイバーシティおの』を創っていきたいです。



——最後に、小野市職員を目指している人に一言お願いします。

マル防 小野市の防災まちづくりに一緒に関わってみませんか。まずは自らがこのまちを良い部分も悪い部分も含め好きになって、愛着を持ってもらい、そして一緒にこのまちの未来を考え「色と香りのまちおの」花のある小野市を目指しましょう！



La・sol 小野市職員になれば、いろいろなことにチャレンジし、活躍できるフィールドが用意されています！



私たちと一緒に職員生活を楽しみましょう！そして、おもしろいこと、楽しいことをしたい人はぜひ La・sol へ！

ONO-zine 若い力を活かし、様々なことにチャレンジできる小野市職員の一員になり、共に楽しい時を過ごしましょう！

